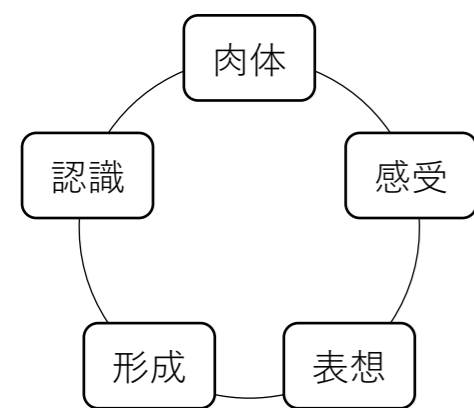


サ ラ ナ No.18 長寿寺報 令和2年4月

※行事の中止などで檀徒の皆さんと接する機会が減ってしまいましたので、これから月報をお配りします。また、今回はほんの心ばかりですが、除菌ティッシュもお配りします。お役立て頂ければ幸いです。

私たちの影響力

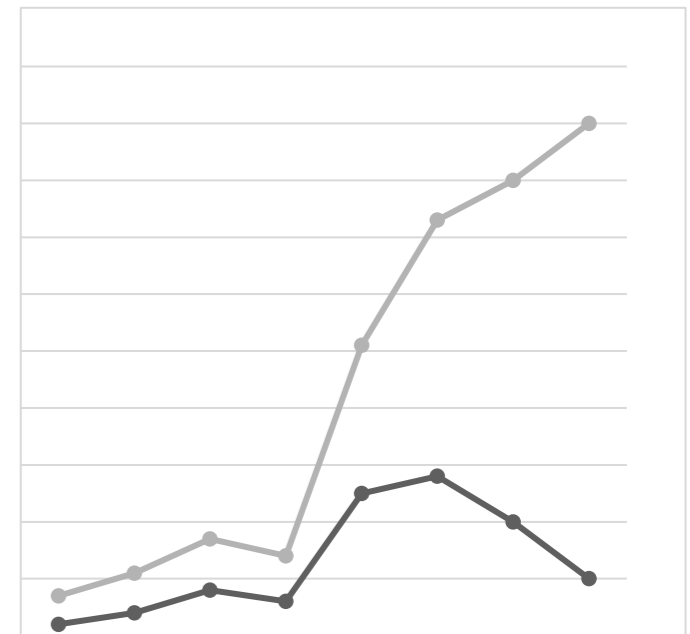
今回のコロナ禍により、私たちは決して一人で生きているわけではなく、他者と関わりながら生きていることが皮肉にも実証されました。なぜなら、ウイルスは一人で居るだけなら感染せず、他者と関わることで感染するからです。だからこそ、感染を食い止めるため、私たち一人一人の行動を変えていくことが必要となってきます。多くの人は自分一人の行動が周囲に与える影響など僅かなものだと思っているようですが、それは大きな間違いです。最初は僅かでも、それはいつしか大きなものに変わるからです。



例えば、仏教には、^{そうぞくてんべんしゃべつ}「相続転変差別」という考え方があります。それによると、人は色々な要素(左の図、肉体と四つの精神作用とで計五つの要素)の集合体として存在していて、絶えず生成と消滅を繰り返しています。そんな存在の私たちが善い行いをすると善業というエネルギー

が要素として組み込まれ、悪い行いをすると悪業というエネルギーが組み込まれます。組み込まれたときには、目にも見えない僅かなものに過ぎないのですが、条件が揃って満を持すと、地獄に堕ちたり、天に生まれ変わったりと劇的な結果を齎すと考えられたのです。これは二十世紀後半の新生科学の一つ「カオス理論」に近似していると評価されています。カオス理論は、膨大な計算をこなすコンピューターの発達により初めてわかったことなのですが、そこでは、「私」を含め、全ての存在は仏教が説くのと同じく無数の要素の集合体として捉えられ、その無数の要素が互いに影響を与え合いながら変容していると考えられています。私があなたに影響を与えたら、影響により変化したあなたが、また私に影響を与えて、私に変化するというような影響の応酬があっているのです。そういう

中においては、要素に僅かな変化が加えられると、後になり右上の図のように突然と大きな変化を生み出します。まるで、弓矢において、手元の僅かな狂いが的に到達するときには大きな違いとなって表れるように、禅の言葉では、「毫釐も差あれば、天地懸かに隔たる(毛の先ほどのズレがあると、天と地ほどにもかけはなれる)」と言います。カオス理論が判るまでは、大きな系において僅かな変化が加えられても、系そのものの大筋には大した違いはないから無視していても構わないと考えられていましたが、実はそうではなかったのです。



地球における新型コロナウイルスの感染終息にも同じことが言えます。もし、あなたが自分一人の行動なんて僅かなものだと思い、手洗いを疎かにしたり、マスクをせずに外出すると、実際に感染が拡がったり、周囲に緩んだ空気を醸成してしまったりして、感染終息という系で見たときに本当であれば終息していたものが、いつまでも感染拡大が止まらないという正に天と地ほどの大きな違いを生んでしまうのです。私たちの行為が決して取るに足りないものではないことをしっかりと理解して、一刻も早い終息を皆で迎えましょう。

葬儀・法事の実施に関して

この度、小値賀町役場を通して、島内寺院で構成される法中会より、葬儀・法事における新型コロナウイルス感染予防ガイドラインが出されました。多岐にわたり、非常に細かい点にまで言及されていますが、実際に葬儀を出すことになった際には戸惑われるご家庭も多くなると予想されます。そのような折には住職が助言させて頂くことも可能ですので、ご遠慮なくご相談下さい。また、法事に関しては各ご家庭、それぞれ人数を縮小しながら実施されています。法事をご希望のご家庭はこれまで通り、ご連絡ください。